

参考

屋根雪処理のガイドライン

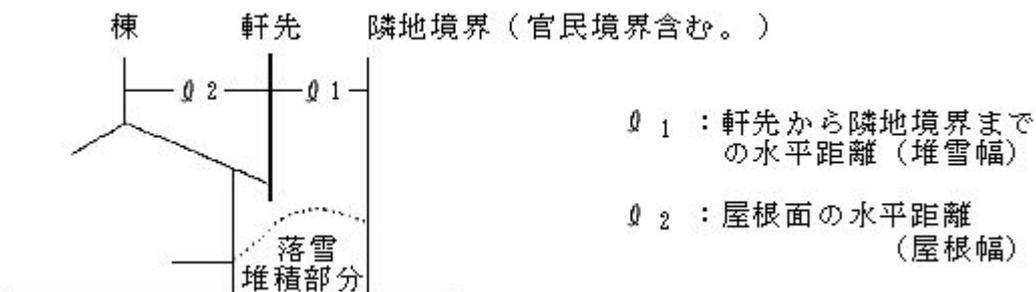
1 屋根雪の処理方法

- (1) 雪下ろし
- (2) 耐雪式：雪を屋根の上に載せ、通常雪下ろしを要しない方式をいう。
- (3) 融雪式等：地下水等を利用して屋根上で融雪する方式をいう（機械式を含む。）。
- (4) 落雪式：人力によらず雪を自然に落下させる方式をいう。

2 処理方法別の注意事項

- (1) 雪下ろし：隣接地等（特に道路）に支障を及ぼさないよう十分に配慮して雪下ろしをすること。また、雪下ろし場所を十分確保した建築設計をすること。
- (2) 耐雪式：雪庇の落下防止用のフェンスの設置等、隣接地等に支障を及ぼさないよう適切に維持管理すること。
- (3) 融雪式等：隣接地等に支障を及ぼさないよう適切に維持管理を行うこと。
- (4) 落雪式：堆雪幅は、隣接地等（特に道路）に支障を及ぼさないよう十分に確保すること。なお、落雪方向の隣接地所有者等と事前に協議することが望ましい。

(堆雪幅の参考)



(参考数値)

日本雪氷学会「雪氷」第40巻 中村秀臣氏「滑落した屋根雪の堆雪形状」による

h : 垂直積雪量

l_2 (屋根幅)	l_1 (堆雪幅)									
	h=1.0	h=1.3	h=1.7	h=1.8	h=1.9	h=2.5	h=3.0	h=3.1	h=3.2	h=4.0
3.0m 未満	0.54 _{l2}	0.61 _{l2}	0.69 _{l2}	0.71 _{l2}	0.73 _{l2}	0.81 _{l2}	0.85 _{l2}	0.86 _{l2}	0.87 _{l2}	0.94 _{l2}
3.0m 以上～4.0m 未満	0.54 _{l2}	0.60 _{l2}	0.68 _{l2}	0.70 _{l2}	0.72 _{l2}	0.81 _{l2}	0.85 _{l2}	0.85 _{l2}	0.85 _{l2}	0.94 _{l2}
4.0m 以上～5.0m 未満	0.51 _{l2}	0.56 _{l2}	0.64 _{l2}	0.65 _{l2}	0.67 _{l2}	0.75 _{l2}	0.83 _{l2}	0.84 _{l2}	0.85 _{l2}	0.91 _{l2}
5.0m 以上～10.0m 未満	0.48 _{l2}	0.54 _{l2}	0.62 _{l2}	0.63 _{l2}	0.65 _{l2}	0.72 _{l2}	0.78 _{l2}	0.79 _{l2}	0.80 _{l2}	0.88 _{l2}
10.0m 以上～15.0m 未満	0.38 _{l2}	0.44 _{l2}	0.50 _{l2}	0.52 _{l2}	0.53 _{l2}	0.59 _{l2}	0.64 _{l2}	0.65 _{l2}	0.66 _{l2}	0.73 _{l2}
15.0m 以上	0.34 _{l2}	0.39 _{l2}	0.44 _{l2}	0.45 _{l2}	0.46 _{l2}	0.52 _{l2}	0.56 _{l2}	0.57 _{l2}	0.58 _{l2}	0.64 _{l2}

※計算例

屋根面の水平距離(l_2)が4.2m、垂直積雪量が2.5mの場合

$$l_1 = 0.75 \times 4.2\text{m} = 3.15\text{m}$$

したがって、落雪堆積部分において、軒先から隣地境界までの水平距離は、3.15m以上必要となります。